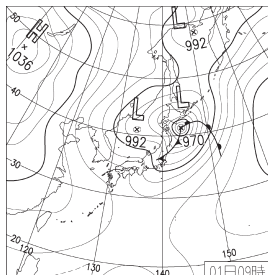


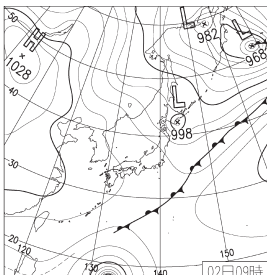
日々の天気図

— No. 201
2018年10月

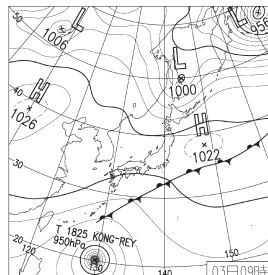
- 1日、台風第24号の影響で、東～北日本の各地で暴風となり家屋損壊や倒木等多数、その後塩害による農作物被害や停電、鉄道遅れも。
- 4～6日、台風第25号が接近し沖縄・九州・東北で大雨や強風等。
- エルニーニョ現象が発生し、春にかけて続く可能性が高いと発表。
(気象庁予報部予報課)



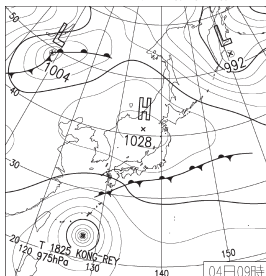
1日(月)台風第24号温低に
台風は東日本から東北を通過し9時に温帯低気圧に、極値更新となる暴風のところも。台風通過後、関東や北日本太平洋側は晴れて気温上昇。各地の最高気温が10月極値更新。



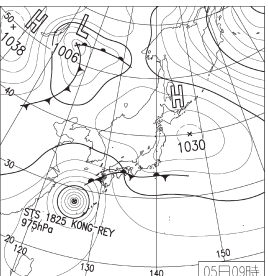
2日(火)津市でアキアカネ初見
低気圧の影響で北陸や北日本で雨。先月、地震のあった北海道厚真町内で22.5 mm/1hの強い雨。北海道江差で最大瞬間風速30.8 m/s。沖縄、西～東日本は概ね晴れ。



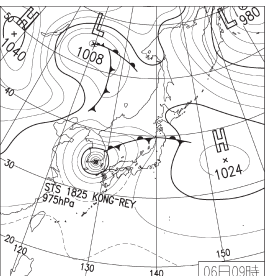
3日(水)本州付近は広く秋晴れ
前線や台風第25号からの湿った空気の影響で沖縄・奄美は雨。北海道は気圧の谷の通過で所々雨。その他は高気圧に覆われ晴れや曇り。九州では最低気温が11月上旬並の所も。



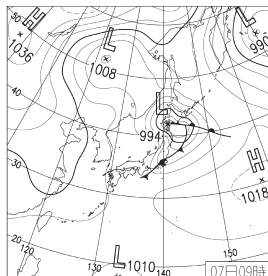
4日(木)台風第25号沖縄接近
大型で強い台風の影響で沖縄県渡嘉敷では最大瞬間風速40.3 m/s。西～東日本は前線により太平洋側中心に雨。宮崎県田野では日降水量272 mm。北日本は高気圧に覆われ概ね晴れ。



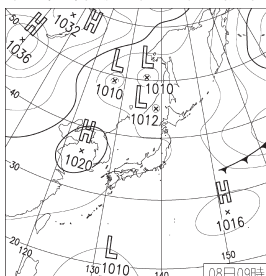
5日(金)旭川で初霜
高気圧に覆われ北海道は朝から晴れ。風も弱く放射冷却により、最低気温が11月上旬の所も。1.1℃まで下がった旭川では平年より3日早く初霜を観測。北海道胆振地方で震度5弱。



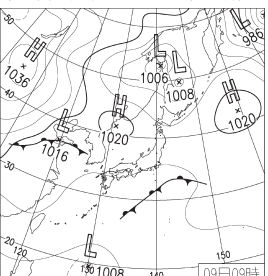
6日(土)長崎大荒れ、新潟猛暑
台風第25号は対馬海峡から日本海へ。長崎県厳原で10月の記録更新となる最大瞬間風速39.5 m/s。台風による暖かい南風で新潟県三条は10月極値の最高気温36℃を記録。



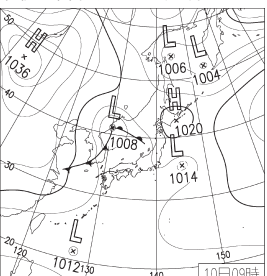
7日(日)東北中心に大荒れ
北日本は台風第25号から変わった低気圧が通過。山形県飛鳥で最大風速31.4 m/sの猛烈な風。西～東日本の日本海側は雨。関東中心に最高気温10月1位更新・タイが27地点。



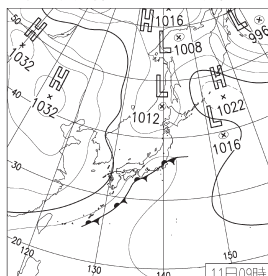
8日(月)高気圧張り出す
北海道は気圧の谷の通過で曇りや雨。関東は湿った空気の影響で概ね曇り。その他は高気圧に覆われて穏やかな晴天。最高気温は西日本～東北で平年より高く、9月上旬並の所も。



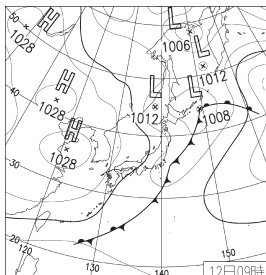
9日(火)穏やかな秋晴れ
北日本は気圧の谷の影響で曇りや雨の所があった。その他は気圧の傾きが小さく、概ね晴れ。沖縄～東北南部では夏日に。北海道厚真町で震度4。広島・佐賀市でススキ開花。



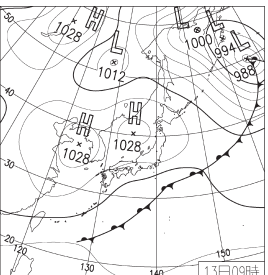
10日(水)全国的に曇りや雨
気圧の谷の影響で九州～北海道で曇りや雨。静岡県御前崎では53 mm/1hの非常に激しい雨。朝の最低気温は西日本や東北で平年より6℃以上高い所があり、9月上旬並の所も。



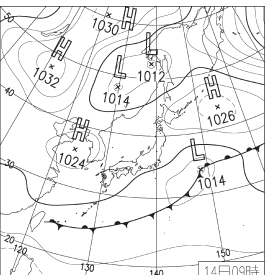
11日(木)本州南岸前線停滞
前線の影響で全国的に曇りや雨。東海～関東南部は朝にかけて雷雨。千葉県銚子で50 mm/1hの非常に激しい雨。西日本や北陸は気温が上がらず、最高気温は11月上～中旬並。



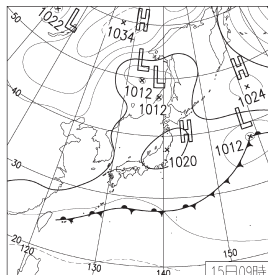
12日(金)西日本気温上がらず
高気圧が張り出し晴れ間が広がる一方、湿った空気や低気圧で沖縄や東～北日本は曇りや雨も。西日本は寒気流入気温上がらず。那覇の最高気温21℃は明け方記録し12月中旬並。



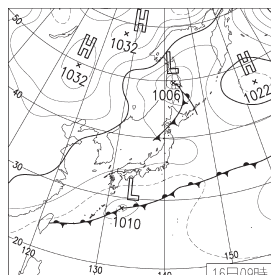
13日(土)利尻山で初冠雪
日本付近は広く高気圧に覆われ、東日本太平洋側と沖縄を除き晴れ。伊豆諸島は大気の状態が不安定となり、東京都の雨量計では未明に御蔵島で122 mm/1hの猛烈な雨を観測。



14日(日)東京都大島で40 mm/1h
前線や気圧の谷の影響で沖縄・奄美や東日本～東北の太平洋側では曇りや雨となり、激しい雨の所も。その他は帯状の高気圧に覆われ概ね晴れ。鉾路市でカエデ紅葉、全国最早。

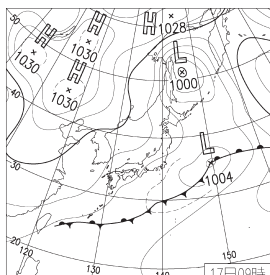


15日(月)栃木県で震度4
前線や気圧の谷の影響で北海道や西諸島は曇りや雨。沖縄県渡嘉敷67.5 mm/1hの非常に激しい雨と北海道本泊24 mm/1hの強い雨は共に10月1位更新。岡山市アキアカネ初見。



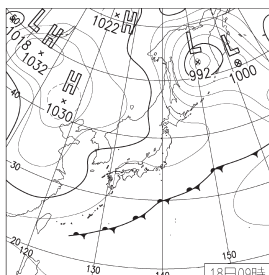
16日(火)全国各地で雨

日本の南の前線や湿った空気の影響で沖縄・奄美や西～東日本は曇りや雨、寒冷前線が通過した東北は晴れのち雨、北海道は大気の状態が不安定で所々で雷雨。鹿児島市モズ初鳴。



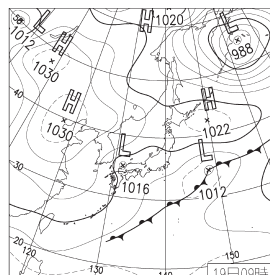
17日(水)日本の南に前線停滞

大陸から高気圧が張り出すものの、日本の南に前線が停滞し天気の回復は限定的。前線から離れた島根県西郷岬でも32 mm/1hの激しい雨。熊谷市で平年より7日遅くサザンカ開花。



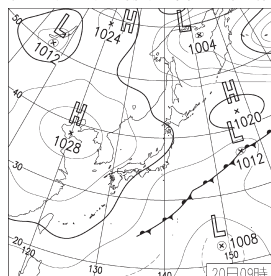
18日(木)島根県で猛烈な雨

日本海に強い寒気が入り西日本日本海側中心に大気の状態が非常に不安定。鳥取県の海上で竜巻発生。島根県隠岐の島町付近で約100 mm/1hの猛烈な雨。帯広で初霜、初氷を観測。



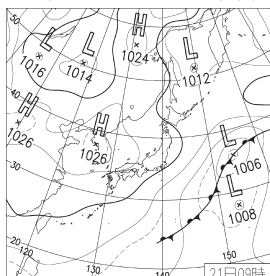
19日(金)石川県で短時間大雨

珠洲市付近で約100 mm/1h、寒気を伴った上空の気圧の谷の影響で大気の状態が不安定。西日本の日本海側や東日本を中心に雨。北海道は晴れて朝の最低気温は氷点下の所が多い。



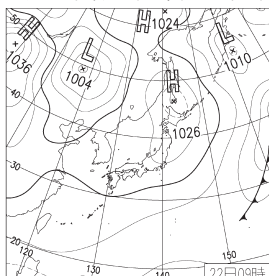
20日(土)札幌で初霜

大陸から高気圧張り出す。北海道中心に朝は冷え込み、旭川や帯広の最低気温-0.1℃は、今季初の氷点下。上空を気圧の谷が通過し大気不安定。栃木県小山で31.5 mm/1hの激しい雨。



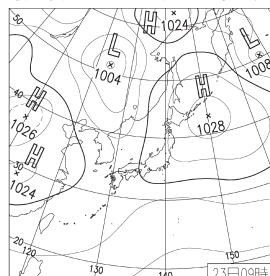
21日(日)全国的に秋晴れ

高気圧に広く覆われ先島諸島や伊豆諸島の一部、北海道オホーツク海側などを除き全国的に晴れ、そして概ね快晴。浅間山、甲斐駒ヶ岳、立山で初冠雪。各地で最低気温が11月並。



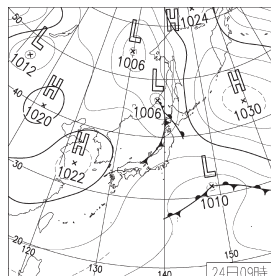
22日(月)福島県で震度4

全国的に高気圧に覆われ、朝は晴れて放射冷却で冷え、盛岡で初霜を観測。日中は日射により気温が上昇し、鹿児島で25.7℃の夏日。マーシャル諸島近海で台風第26号が発生。



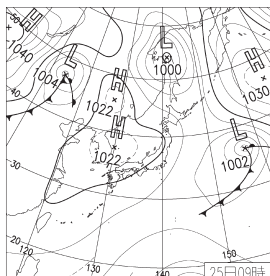
23日(火)帯広市でカエデ紅葉

気圧の谷や湿った空気の影響で西日本や東海、関東は曇りや雨。沖縄・奄美や北日本は高気圧に覆われ概ね晴れ。西日本～関東は気温が上がらず、最高気温が11月下旬並の所も。



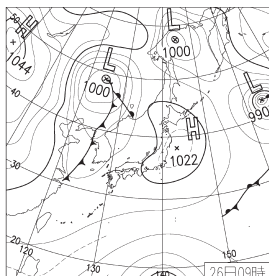
24日(水)北日本は暖かい朝

近畿～北日本は気圧の谷の影響で雨の所が多い。北日本には暖気が入り、北海道では朝の最低気温が平年より10℃以上高く、9月上旬並の所も。西日本や東海では日中は概ね晴れ。



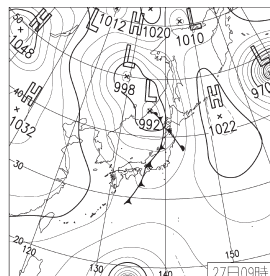
25日(木)全国的に秋晴れ広がる

移動性高気圧に覆われ、日本海側沿岸の一部でしぐれた他は、全国的に広く晴れ。朝は気温が下がり、東北以南で最低気温が11月中～下旬並の所も。釧路市でカエデの落葉。



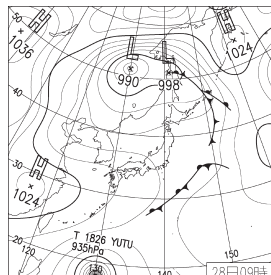
26日(金)岩手県と宮城県で震度4

気圧の谷が接近、沖縄・奄美を除き西から天気下り坂。九州では昼前から全般に雨、夕方には中国、四国～北陸でも雨。東海や関東は曇りで夜は雨、北日本は晴れのち曇り。



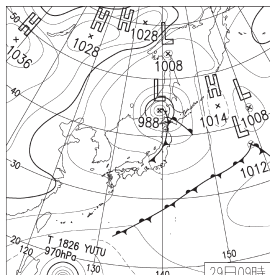
27日(土)北日本は荒れた天気

湿った空気が南下し沖縄・奄美は雨のち晴れ。その他の地方も、発達する低気圧と前線に伴う雨雲が東進後、西日本太平洋側から次第に晴れ。北日本3地点で最大風速10月1位更新。



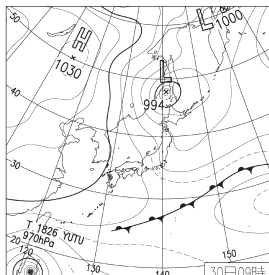
28日(日)岩手山で初冠雪

発達した低気圧の影響により山形県飛鳥で最大瞬間風速23.2 m/s。下層の寒気の吹き出しに伴い、北陸と北日本の日本海側では時々雨。その他の地方は概ね晴れ。



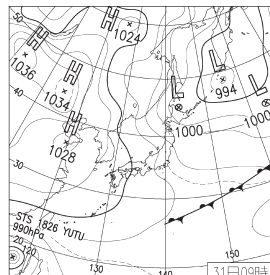
29日(月)寒冷前線が通過

低気圧は発達しながら日本海北部を北上。本州の日本海側や北海道は曇りや雨。夜には上空約1500 mで氷点下の寒気が北海道に流入。九州北部や西～東日本の太平洋側は概ね晴れ。



30日(火)北海道で初冠雪続々と

上空約1500 mに-6℃の寒気が入り、手稲山、横津岳、雌阿寒岳などで初冠雪。しぐれ雲がかかった日本海側は曇りや雨。北海道西風連の日降水量50.5 mmは、10月1位を更新。



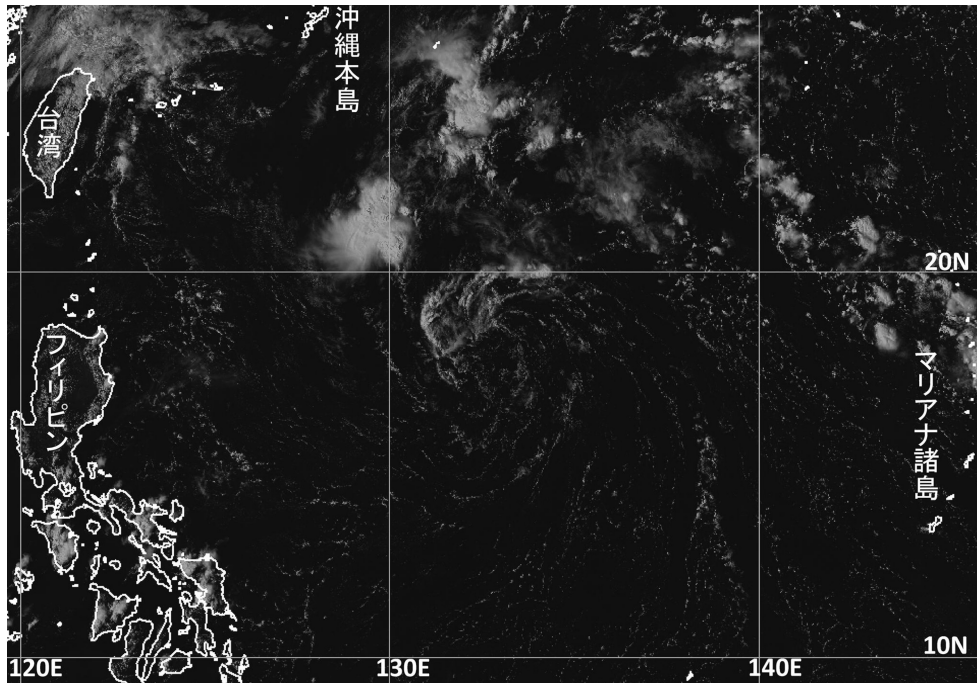
31日(水)冬型の気圧配置

北日本に寒気が入り、山陰～北陸や北日本の日本海側では曇りや雨。北日本の一部で強風や大雨。西～東日本の太平洋側は曇りや晴れ。沖縄・奄美は気圧の谷の影響で曇りや雨。



今月のひまわり画像—2018年10月

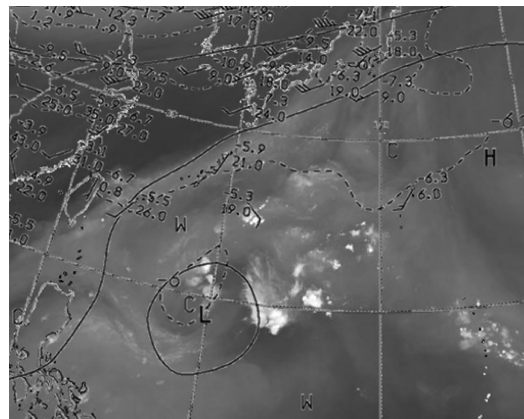
フィリピンの東から沖縄の南に出現した下層循環



第1図 2018年10月7日15時（日本時間）のフィリピンの東から沖縄の南付近における可視画像。

第1図は2018年10月7日15時（日本時間）のフィリピンの東から沖縄の南付近における可視画像である。直径約600海里（1海里≒1.85 km）の大きな雲渦が見られ、図のほぼ中央に低気圧性循環の中心がある。この雲渦は5日日中、北緯17度、東経140度付近から次第に明瞭となり、西に進みながら7日には循環の規模が大きくなった。極軌道衛星のマイクロ波散乱計や循環内にいた船舶で観測されたこの付近の海上風速は15～20 kt（1 kt≒0.51 m/s）に達していた。雲渦が発生した近海の海面水温は28～29℃と高かったが、中心付近には組織的な積乱雲が発生しておらず、下層雲が主体だったことから、このじょう乱については発生（7日09時）から消滅（10日09時）まで熱帯低気圧ではない低気圧として解析された（地上天気図については「日々の天気図」参照）。

雲渦の中心から約400海里以内の北西側には500 hPaで -6°C 以下の上層寒冷低気圧（UCL：Upper Cold Low）が存在していた（第2図）。UCLは2日にはマリアナ諸島を西進しており、その後西北西から北西へ進み、9日には不明瞭になった。下層循環は、



第2図 7日09時の水蒸気画像に500 hPa 高層天気図を重ね合わせた図。

このUCLの東～南東側で顕在化し、その後の移動もUCLの影響を受けていたと考えられる。

（気象庁予報部予報課 原 基）